



ライスアイランド

R I weekly レポート

株式会社ライスアイランド
 〒500-8322
 岐阜市香取町3-38
 電話 058(253)0310
 FAX 058(252)5115
 2003年3月10日
 vol.11 担当 田崎

～ シリアル・ルネッサンス～

<http://www.riceisland.co.jp>

第17回赤米シンポジウムの参加報告

赤米は縄文時代に大陸から日本に伝わったといわれ、お米のルーツともいわれています。昔は神事では欠かせない物で、体にもよく、ごはんに混ぜて炊くときれいな桜色になることから、「素食生活」シリーズの中でも人気の商品です。

今年も「赤米シンポジウム」が奈良で開催されました。昭和六十二年に第一回赤米シンポジウムが奈良で開催され、今年で第十七回目になります。主催は日本古代米稲研究会で、同会の目的は生産者が集まり古代稲の栽培技術を研究し、古代稲栽培の復興および古代米の普及を目的としています。現在、全国で百八十人、その内八割が生産者です。赤米に魅せられた会員が栽培に取り組み、赤米が市場に生まれ始めました。

R Iでは赤米・黒米仕入のほとんどを全国の農家や農業団体から直接仕入れています。日本古代稲研究会の会員として生産者と交流し、栽培上の注意点・古代米種子の地域適応性・収穫時の色づきなど、長年栽培されている生産者から生産現場での情報を集めております。

赤米の歴史

日本で初めて伝わった米は、ジャポニカ種の赤米といわれており、縄文時代、弥生時代、奈良時代には広く栽培されていたようです。鎌倉時代には、中国から大唐米（インディカ種赤米）がやせ地でも栽培できるインディカ種として広く栽培されていきました。

明治時代には、赤米は雑草と思われるようになり、赤米駆除運動が始まり、明治政府により、「赤米栽培禁止令」が出て、明治以降は古代米（赤米）が途絶えました。

昭和四十年奈良平城京から出土した赤米の木簡が見つかりました。昭和五十年京都府丹後郷土資料館に展示され、木簡に大変興味を示された芦田行雄氏が岡山県総社市の国司神社に赤米が受け継がれていることがわかり、神社より少量の種籾を譲り受け、ミニ水田で栽培を始められたのが赤米復活の第一歩となりました。（会員大塚文平氏の講演より）

一昨年からは黒米がテレビで放映されることで店頭から品切れが発生するようになった状態になりました。参加した赤米・黒米生産者の声をお伝えします。

- ・ 昨年は4月頃早々に売りきってしまった。
 - ・ 黒米に引きつられ、赤米の需要も高まった。
 - ・ 昨年14年産の赤米・黒米は作付面積を増やした。
 - ・ 今年15年産の作付けの為に、多方面から種子の問い合わせがあった。
 - ・ 今年の作付けは、昨年の2倍で予定をしている。
- これらの影響で、古代米を使った商品開発も進んでいます。赤米（黒米）を使って色をつけた赤飯、粒の食感が楽しめるパン、クッキーなどです。

R Iは赤米・黒米を傷みにくく、炊きやすくするための加工をして提案させていただいております。

FOODEX2003のご案内

日時：2003 3/11（火）～14（金）

午前10時～午後5時まで

（最終日4時まで）

場所：幕張メッセ

ブース番号：6N 203

素食生活の新しい展開をご提案します。

売り場のレイアウトから、特売・エンド展開まで各店舗の状況に合わせて「売れる売り場作り」のご提案！！

売り場面積あたりの売上効率アップのお手伝い！！

セールスプロモーション支援セミナーのご案内

日時：3/11 12:00～12:30

内容 食のルネッサンス「なぜ今雑穀なのか」

素食生活の現状と、今後拡大する雑穀市場についてご紹介いたします

来週のR.Iレポートは、「FOODEX 報告」です。3/17日のお届けです。

ご要望がありましたらご記入の上ご返信ください。FAX 058-252-5115 TEL

御社名

担当様